

公表 12事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス大洋		2025年 3月 31日				
	チェック項目			工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		児童が活動する場所が複数確保され、密集しないように働きかけや環境整備ができる	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		児童の数や特性に応じて現場に配置される職員数が適切である	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		その日のスケジュールが書かれたホワイトボードや次の動きを示すタイマーが設置されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日清掃をおこない、空気清浄機や加湿器等も使用し快適な環境が用意されている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		部屋が複数あり、必ず一つは空いている状況である。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		毎日ミーティングを行い、昨日あった反省点やその日の目標を共有できている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者との面談や評価表を活用して、日々の支援や業務につなげることが出来ている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎日のミーティングや定期的な面談を実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		外部の方による施設評価をする機会はない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2	職員が支援の質向上に関わる研修や講習会を受ける体制が整っている。	パート職員に対する研修が少ない。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		毎月決まった日(15日)に保護者へ次月の活動プログラムを含めたお便りを配布している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		モニタリング面談や会議を通して、児童と保護者のニーズや課題等を分析・共有できている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		モニタリング・個別支援計画、両方の会議を社員全員で行うことで、多角的な視点で検討されている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		個別支援計画会議を社員全体で行い、制作された個別支援計画も共有されて支援につなげることができる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		療育システム「HUG」を活用して、日々の様子が記録されている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		個別支援計画には、本人、家族、移行、地域連携という項目が含まれていて目標設定なされている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		毎月、活動の担当職員を中心に社員全体でプログラム制作がなされている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		季節に対応したイベントや同じプログラムでも内容を変化させ工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団活動を持ち味にしている事業所ではあるが、児童に合わせて個別的な目標や支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎日、児童が登所する前にミーティングを行い、その日の活動の支援目標や役割分担を打ち合わせることができる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	7		毎日のミーティングでは昨日の振り返りとして、前日行った支援・活動について振り返る機会を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		毎日のミーティングにて、支援の記録を徹底している。また療育システム「HUG」にて、支援を行った際の児童の様子も記録されている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		個別支援計画時期に合わせてモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7		「4つの基本活動」を盛り込んだ多様な活動プログラムを実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		自分の行動選択に不安を持つ児童には適宜、選択肢を与えサポートしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		相談支援事業所や学校、公共施設などと連携をして支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校送迎時に、児童の一日の様子を共有してもらっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			就学前に通われていた施設との情報共有はない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			障害福祉サービスへ移行した児童は現在までおりません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		地域イベントに積極的に参加しており、地域の方と交流する機会が設けられている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7			参加していない。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		帰り送迎での玄関先で事業所での様子をお伝えしている。また、特記事項については必ず電話かLINEにて直接お伝えをして情報共有に努めている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7			ペアレントトレーニングはしていない。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		新規利用の契約時に説明を行っている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		個別支援計画の制作に伴い、該当児童と保護者に面談を行いニーズを反映している。		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		次期の個別支援計画完成後、保護者に内容の説明を行い了承を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者から支援や療育、子育てに関する相談に対して応じることができている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		7		利用児童の保護者間で交流する機会は設けていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		プライバシーに関する配慮は行いつつ、SNSでの事業所の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		業務上のデータや情報に関しては、事業所から外へ出ないように徹底できている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		事業所が企画したイベントで地域の交流はおこなっていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		必要な避難訓練は行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		保護者や学校との情報共有で児童の状況を収集している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			現在食物アレルギーを持っている児童はいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に沿って、必要な研修や訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		毎月、一か月間のヒヤリハットをまとめて共有を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止に関する研修を支援に関わる職員全体で行うことができている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		身体拘束が必要と思われる児童には個別支援計画への記載とともに、保護者にも必要な説明を行っている。		